

臨地実習直後に客観的検査技術能力試験を取り入れた新しい評価方法について

望月泰男 石橋朋子 生江麻代 大西英文
(昭和医療技術専門学校)

Key words : 臨地実習評価、客観的検査技術能力試験、段階別評価方法

【はじめに】私達は第55回日本医学検査学会において、臨地実習終了後、卒業レベルの基本的技術能力を評価するための実技試験を導入し、その必要性を唱えた。この試みは本校の臨地実習担当者連絡会議において、学生の客観的な技能習得度を知ることができるとの高い評価を得た反面、その評価が科目成績に反映していないことを指摘された。そこで、今回、臨地実習成績評価の中に、臨地実習後に実施した技術試験を組み込む新しい評価方法を展開したので報告する。

【対象及び方法】平成18年度本校第3学年生73名並びに32臨地実習施設を対象に、各施設のSBOsに基づく5段階別判定法を用いて学生評価を行う。臨地実習終了直後の10月19日、20日の2日間において、客観的検査技術能力試験を実施する。第1日目に検体系(ABO式血液型、尿沈渣標本作製)、第2日目に心電図検査の実技試験を行う。評価方法は、学内試験用シラバスに基づく段階別評価方法を用いる。臨地実習の最終評価は各施設での臨地実習評価7割と学内での客観的検査技術能力試験評価3割を合わせて総合評価する。

【結果】の臨地実習での段階別平均評価は、82.0点、の技術試験の平均評価は、の検体系は93.3点での生理系は81.9点であった。臨地実習の総合評価はの7割との3割を合計した結果、は57.6点、は26.3点となり、その総計は83.9点となった。

一方、のシラバスのSBOsによる科目別実施率は一般検査99.2%、病理検査99.7%、生理検査99.7%、生化学検査97.7%、血液検査100%、微生物検査97.7%、免疫検査97.0%、輸血検査99.0%であった。又、形成的評価の実施率も高く91%であった。の教員による評価においては、手技の速さ、正確性、接遇等に優れた技能を習得した。

【考察】今回、臨地実習評価に客観的技術能力試験の評価を加えたことは、少なからず学生の公正性を見ることができ、科目成績に反映したことの意義が大きい。毎年、臨地実習担当者連絡会議を開催することで、色々な問題点が議論され、教育上欠かすことができない。臨地実習でのSBOsや形成的評価の実施率の高さは学生のやる気を起こさせ、技術向上に繋がっている。そのことは、臨地実習でのシラバスの重要性が認められ、併せて本校で導入している形成的評価および段階別評価法の必要性が示唆されている。臨地実習後の技術能力を評価し、卒業時における一定水準の技術能力を確保することは、より質の高い臨床検査技師を育て、国民の安全な医療の提供に繋がる。今後、臨床検査技師として、第一歩を踏み出すに足る技術能力試験内容を検討する必要がある。そして、すべての臨床検査技師養成機関において、質の担保を図る目的で、技術能力試験が実施されることを心から願う。連絡先:igi-rinken@showa.ac.jp